

先日はてがたんにご参加いただき、ありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回のてがたんは、9月8日(土)で、「地面の上の落とし物」がテーマです。ぜひご参加ください。

*市民スタッフの方へ 次回のてがたん下見は、9月2日(日)の9:30からです。

8月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→親水広場じゃぶじゃぶ池周辺→親水広場水の館前芝生→鳥の博物館でまとめ&解散
- 観察日時と天気：2018年8月11日(土) 10:00～12:00 晴れ
- 参加人数：15人(大人13人、子ども2人)
- 市民スタッフ：6人(弘寛さと子、伊東茂子、木村稔、諏訪吉昭、竹本周平、湯瀬一栄)
- 鳥博職員：1人(斉藤安行)

観察した生き物の記録

【鳥類】カモ科：カルガモ*/カイツブリ科：カイツブリ/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ*/クイナ科：オオバン*/タカ科：トビ/カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス*/シジュウカラ科：シジュウカラ/ツバメ科：ツバメ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ウグイス科：ウグイス/ムクドリ科：ムクドリ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ/ホオジロ科：ホオジロ/（家禽および外来種）コブハクチョウ*、ドバト

【昆虫】トンボ目：アオモンイトトンボ、コシアキトンボ*、ショウジョウトンボ、ノシメトンボ、ウスバキトンボ/チョウ目：アカボシゴマダラ(幼虫・成虫*)、キタキチョウ*、アオスジアゲハ、モンキチョウ、ヤマトシジミ、サトキマダラヒカゲ、チャミノガ(繭)/カメムシ目：クマゼミ(声)*、ミンミンゼミ(声)*、アブラゼミ、ツクツクボウシ、アメンボ/バッタ目：ショウリョウバッタ、オンブバッタ、エンマコオロギ*/甲虫目：アオドウガネ、クロカナブン

【クモ類】ナガコガネグモ、オニグモ、ジョロウグモ*、アシナガグモ

【植物(花)】ユリ科：タカサゴユリ/アヤメ科：オオニワゼキショウ/ツユクサ科：ツユクサ/ガマ科：ヒメガマ/カヤツリグサ科：ヤマイ/イネ科：ギョウギシバ、シマスズメノヒエ、スズメノヒエ、エノコログサ、マコモ/ツツラフジ科：アオツツラフジ/メギ科：ナンテン/ブドウ科：ヤブカラシ/ミソハギ科：サルスベリ/アカバナ科：ユウゲショウ/マメ科：ヤマハギ/バラ科：ヤマブキ/カタバミ科：カタバミ/オトギリソウ科：キンシバイ/アカネ科：ヘクソカズラ/キョウチクトウ科：キョウチクトウ/オオバコ科：ヘラオオバコ/サギゴケ科：トキワハゼ/クマツヅラ科：ボタンクサギ、シチヘンゲ/キク科：ヒメムカシヨモギ、ブタナ、オニノゲシ、セイヨウタンポポ

【植物(果実)】クスノキ、アオツツラフジ、エノキ、マテバシイ、トウネズミモチ

(注) *印は8月5日の下見の時に確認した種。

8月の観察アルバム



今回は、空を飛ぶ生き物、特に身近な昆虫を中心に、飛ぶ仕組みを観察しました。はじめに手賀沼遊歩道で昆虫採集をしました。その後、採集した昆虫を館内に持ち帰り、案内人の市民スタッフのお話を聞きながら、細部をじっくり観察しました。

また、同じ空飛ぶ動物の鳥やコウモリの翼についても、剥製や骨格標本を見ながら、構造を観察しました。



今月の案内人：弘貴さと子さん



①トラップに入っていたクロカナブン。前翅を畳んだまま後翅だけ伸ばしてはばたき、高速で飛行します。



②アオドウガネは、前翅を広げて揚力を得ながら、後翅を羽ばたかせてゆっくり飛びます。



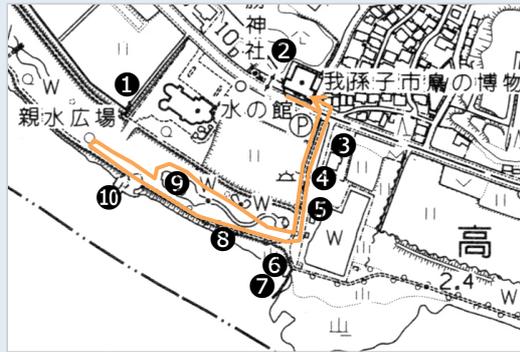
③ケヤキの樹上に、キアシナガバチの巣がありました。前翅と後翅はフックで連結しています。



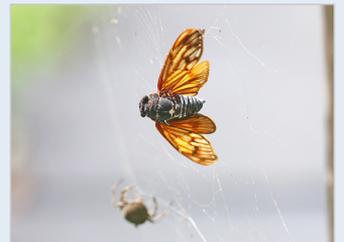
④ナガコガネグモが、アオバハゴロモを捕らえて食べていました。



⑤青空を背景に、サルスベリの花が咲いていました。種子には翼があり、風に乗って散布されます。



歩いたルートと観察した生き物



⑥オニグモの巣に捕まったアブラゼミ。クモは、飛行性の昆虫を捕らえるために網を張ります。



⑦アメンボも空を飛びます。水温が上がったせいか、アオコが発生していました。



⑧アオモンイトトンボの交尾。トンボは、翅を別々に動かして自由に空を飛びます。



⑨樹上で鳴くツクツクボウシ。セミの前翅と後翅を連結するフックを観察しました。



⑩カイツブリの幼鳥が親鳥を呼んでいました。潜って・飛べる水鳥です。

今月の鳥 トビ タカ目タカ科

「♪トンビがぐるりと輪を描いた」と歌われるように、トビは上昇気流を利用してゆっくり飛びます。地上の餌を探して飛行しているからです。翼で得る揚力は、速度の二乗に比例します。したがって、ゆっくりとした飛行では、十分な揚力を得られずに失速しやすくなります。これを防ぐくみが、指を広げたような翼の先端の構造で、失速へつながる乱れた気流を吹き飛ばす装置として働きます。

動物の死体や小動物・人間の捨てた残飯などを餌とする掃除屋のトビにとって、ゆっくり飛べることは、生きて行く上でとても有利な特技なのです。



空中でたわむれるトビ

てがたんにご参加ありがとうございました。次回もお待ちしております。